

共に歩む。共に生きる。



福岡大学 がんセンター

大腸がん

肺がん

胃がん

乳がん

前立腺がん

血液がん

肝がん

皮膚がん

子宮がん

卵巣がん

食道がん

頭頸部がん

口腔がん

膵臓がん

膀胱がん

腎細胞がん

精巣腫瘍

胆道がん

骨軟部腫瘍

悪性脳腫瘍

小児がん

あたたかい医療

福岡大学病院

福岡大学がんセンターが提供する 最先端医療

最先端で一人ひとりに寄りそった、やさしい医療を目指しています。

個別化

がんゲノム外来

遺伝子レベルで対応
個人個人に合わせた適切ながん治療を提供

- 個人に合わせた治療法の提供
- 薬の副作用リスクを削減
- 治療への安心感・満足度の向上
- 病気の予防や早期発見に貢献

がんセンターについて

化学療法部門

抗がん薬に加え、がん細胞がもつ特徴を選択的に攻撃する分子標的薬、自分の免疫力でがんを攻撃する免疫チェックポイント阻害薬など新規の治療薬が開発されています。安全に有効な治療を実施できるよう、専門チームが協力して治療に臨んでいます。



放射線治療部門

外照射機器リニアック2台のうち1台は、強度変調回転放射線治療(VMAT)が可能な新治療機器(ハルシオン)を導入しています。治療時間の短縮が可能で、より高品質な治療を提供できます。脳転移などの小数個の遠隔転移には定位放射線治療も行っています。

がんゲノム医療部門

当院は九州大学病院の「がんゲノム医療連携病院」として、がんゲノム医療を提供しています。がんゲノム医療とは、主にがんの組織を用いて多数の遺伝子を同時に調べることで(遺伝子パネル検査)、遺伝子変異を明らかにし、個々のがんの特徴に応じた治療を行う医療です。

緩和医療部門

医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・公認心理士が一丸となり、専門的な緩和ケアを提供しています。患者さんやご家族が感じている様々な「つらさ」を和らげるために、医療スタッフや地域の医療機関と連携して取り組んでいます。

がん相談・支援部門

がん診療連携拠点病院などに設置されている、がんに関する相談窓口です。治療や療養生活全般、仕事と治療の両立に関すること、セカンドオピニオンなど、がんに関することについて、資格を持った相談員に何でも相談できます。



センター長ごあいさつ

地域がん診療連携拠点病院としての機能を整備する目的で、2007年に腫瘍センターを設立しました。2021年よりがんセンターに名称を変更し、個々のがん患者さんに最適な外科手術、放射線治療、薬物療法を提供するとともに、様々な職種が協力してがんに伴う症状や治療に伴う苦痛を和らげる治療に力を入れています。

センター長
高松 泰



低侵襲

最先端ロボット手術センターとの連携

ダビンチによる
様々ながん治療対応

- 治療時の身体的負担の軽減
- 術後の痛みを緩和・軽減
- 早期回復・社会復帰が可能
- 治療にかかる経済的負担の軽減



「10の部門」

がんリハビリテーション部門

がん治療において、体力の低下は日常生活動作(ADL)への影響だけでなく、治療の選択肢を狭め合併症のきっかけとなります。がん患者さんの体力やADLの評価を行い適切なリハビリテーションを提供することで、適切な治療を受けられるよう支援いたします。



がん手術支援部門

通常のがん手術のみならず、ロボット支援手術・ハイブリッド手術・ナビゲーション手術などの高度ながん手術を行っています。当部門では、このような手術治療の情報共有や患者さんへのがん手術の啓蒙活動などを行っています。



がん地域医療支援部門

『大切にしたい、いつもの生活』をスローガンに、がん治療を受ける患者さんが可能な限り今までと変わらない生活ができるように、紹介医や連携医療機関との密な連絡を取り合いながら全力でサポートしていきます。



がん登録部門

「がん」の診断・治療を受けたすべての患者さんについて、がん情報・治療情報・予後情報を収集し登録しています。これらの情報を、がん患者さんへの適切な医療の提供、当院におけるがん診療の実態把握や質の向上に役立てています。

がん診療部

診断や治療に難渋する症例や社会的な問題を抱えた症例などを対象に、さまざまな分野の専門家が一同に会し多面的に検討することで、患者さんにとって最善の方針決定を行います。紹介医も参加していただけます。

消化器がん

福岡大学病院消化器グループ(消化器内科・消化器外科)では、協力して消化管(食道・胃・大腸・直腸)がんと肝胆膵(肝臓・胆管・膵臓)がんの診断・治療を行っています。

正確な診断

- 患者さんに良い治療を行うには、病変の範囲と転移の有無や深達度などががんの進行度を正確に知ることが大切です。
- 消化器内科には消化管や肝胆膵内視鏡の診療技術の高い医師がいます。
- 切除した標本については、病理部とカンファレンスを行い、正確な診断を行っています。

丁寧に負担の少ない治療

- 内視鏡によるがんの切除は、臓器を切除しないので体の負担が少なく済みます。
- 病変や患者さんの具合によっては、苦痛の少ない全身麻酔で内視鏡切除を行います。
- 患者さんに負担の少ない腹腔鏡手術などを積極的に行っています。
- 食道や直腸がんなどの難しい手術には最先端のロボット手術を行っています。

患者さんの状態に合わせた個別化治療

- がんの遺伝子情報を参考に、それぞれの患者さんに合った抗がん薬を選んで治療します。
- 進行がんには手術の前に抗がん薬や放射線治療を行って、がんを縮小させてから治癒率を上げる試みをしています。

福岡大学病院消化器グループの特徴

- 患者さんの身になって考える「あたたかい医療」をモットーにしています。
- 多数の症例があり、経験豊富で確かな腕を持った医師が診療を行います。
- がん患者さんの不安を和らげるため、早い対応を心がけています。
- 検査は原則外来で行いますが、通院困難な患者さんはぜひご相談下さい。
- かかりつけ医と、大切な患者さんの情報を交換しながら診療を行います。



消化器内科
平井 郁仁



消化器外科
長谷川 傑



化学療法
吉田 陽一郎



診療は毎日行っています。詳しくはホームページをご覧ください

● 消化器外科

✉ メールによるご相談を承ります。

● 消化器内科



ホームページ



Facebook



お問い合わせ



ホームページ

肺がん

肺がんの治療は種類・進行度で変わります。
呼吸器内科・呼吸器外科が担当します。

早期がん 1~2期 手術治療が主体です

手術担当の呼吸器外科外来(火曜日・木曜日)にご来院ください。
連絡・相談は随時受け付けています。

専用電話 080-8385-1195 平日9:00~17:00対応

胸腔鏡・ロボットを駆使した体に優しい最新の低侵襲手術を施行します。

平均入院期間 術前検査期間 1~2日
術後入院期間 4日間程度



呼吸器内科
藤田 昌樹



呼吸器外科
佐藤 寿彦

進行がん 3~4期 薬物療法(抗がん薬、分子標的薬、免疫療法)・放射線治療が主体です

薬物療法担当の呼吸器内科外来(毎日)にご来院ください。
連絡・相談は随時受け付けています。

専用電話 092-801-1011(内線3376) 平日9:00~16:00対応

近年新しい治療(免疫療法等)が次々に登場し
長期的効果が期待できるようになっています。

平均入院期間 気管支鏡検査 2~3日
薬物療法入院期間 3日間~数週間程度

詳しくはホームページをご覧ください

● 呼吸器外科



● 呼吸器内科



乳がん

乳がんの治療は、乳腺外科・形成外科・腫瘍内科・放射線科が
それぞれの専門性を生かして連携しながら担当します。

外科治療

乳がんの広がりや進行度に合わせて、乳房再建を含めた最適な術式を提案し、きれいな形を目指します。

乳房再建

形成外科医と連携し人工物・自家組織いずれの方法も選択できます。

薬物治療

乳がんの進行度・性格であるサブタイプに合わせた最も効果的な治療を、内分泌療法・化学療法・分子標的治療を組み合わせで行います。

放射線治療

乳房部分切除術後、進行・再発乳がんなど患者さんの状態に合わせて、放射線治療専門医と連携して行います。



乳腺外科
吉永 康照



腫瘍内科
田中 俊裕

福岡大学病院の特徴

専門の医師・薬剤師・看護師の充実したスタッフにより、患者さん一人ひとりに合わせた最適な治療を相談し行っています。必要に応じてBRCA遺伝子検査を含め、診断、手術、薬物療法、放射線治療、緩和医療を地域の医療機関と連携して行います。

診療日時

- 乳腺外科外来 …………… 月・火・水 / 9:00~12:00
- 腫瘍内科外来 …………… 月~金 / 9:00~12:00 / (初診受付可)
- がんゲノム医療専門外来 …… 月 / 13:00~ / (予約制・紹介状必要)

泌尿器がん

前立腺がん、腎臓がん、腎盂・尿管がん、膀胱がん、精巣腫瘍、副腎腫瘍等、すべての泌尿器がんを取り扱っています。

腎泌尿器外科の特徴

- 専門外来制をとり、スタッフが患者さん一人ひとりに丁寧に対応しています。
- 病診連携を重視し、病状安定後、ご紹介元でフォローをお願いしています。
- 迅速な検査を心がけています。前立腺生検も通常は1～2週間程度で実施しています。
- 迅速な手術治療を心がけています。重篤な併存疾患がない場合、早ければご紹介後、翌週に手術を行っています。ほとんどの疾患は、ロボット手術か腹腔鏡手術で対応します。
- 泌尿器がんゲノム外来を開設し、前立腺や難治性がんの個別化医療を行っています。



腎泌尿器外科
羽賀 宣博



詳しくはホームページをご覧ください

メール相談も承ります。お気軽にどうぞ。

hinyouki@fukuoka-u.ac.jp

血液がん

白血病、骨髄異形成症候群

血球減少、もしくは末梢血中に芽球が認められる場合は、白血病や骨髄異形成症候群が疑われます。重症な感染症や出血を起こす危険があるため、緊急対応で診断、治療を行います。

多発性骨髄腫

血清総蛋白の増加（血清蛋白電気泳動でM-peak）により診断されることが多い病気です。原因がよくわからない貧血、腎機能障害、骨痛や病的骨折が見られる場合は、多発性骨髄腫を疑うことが大切です。

悪性リンパ腫

発熱など感染症状を伴わない無痛性のリンパ節腫脹を来することが一般的ですが、リンパ腫に伴って発熱や体重減少など全身症状が現れることがあり、不明熱の原因となる場合があります。

骨髄増殖性疾患 (赤血球増加症、血小板血症)

血栓塞栓症の合併が生命予後に大きく影響します。血球数のコントロールに加えて、病診連携による高血圧や糖尿病、高脂血症など生活習慣病の治療が重要です。



腫瘍・血液・感染症内科
高松 泰

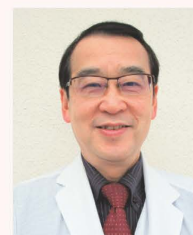
診療日 / 連絡先

毎日外来診療を行っています。受診の予約は、地域医療連携センターにご連絡ください。緊急対応が必要な場合は、腫瘍・血液・感染症内科の外来もしくは医局までお電話ください。

- 医局 電話 092-801-1011（電話交換に外来もしくは医局とお伝えください）

婦人科がん

婦人科がんは、子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん、外陰がん、膣がんなど多岐に渡ります。婦人科腫瘍の専門医が責任を持って手術・化学療法・放射線療法などの治療手段のなかから診療ガイドラインに基づいた最適な治療を選定し、患者さん・ご家族に十分に相談させていただきながら治療を提供しています。また、治療により生じる副作用にも、個別に対応させていただいています。



産婦人科
宮本 新吾

手術

腹腔鏡やロボット支援手術といった負担の少ない低侵襲手術を広く導入しています。

放射線治療

低位放射線照射や強度変調放射線治療など最新の治療を実施しています。

化学療法

従来の抗がん薬治療に加えて分子標的治療薬なども積極的に取り入れて治療を行っています。



診療日

2021年4月からは初診日を月曜日、火曜日、木曜日、金曜日に増加しました。がんに関することは何でも気軽にご相談ください。

放射線治療

放射線治療は症状緩和(疼痛、通過障害、出血など)から根治治療まで、あらゆる部位のがん治療に幅広く対応しています。新治療機器のHALCYON(ハルシオン)による強度変調回転放射線治療(VMAT)により、高品質な治療も提供しています。

また、新たに小数個の脳転移、オリゴ転移、脊椎転移に対する定位放射線治療も開始しました。脳転移に対する定位放射線治療はガンマナイフのかわりにピンポイント照射が可能で、ガンマナイフ施設に紹介することなく当院で治療が可能です(5cm未満、5個以内で、照射回数はサイズにより1~5回)。放射線治療ができるかな?と思った時はぜひご相談ください。



高精度放射線治療装置 HALCYON(ハルシオン)

診療日時

月・木・金 / 午前中



放射線科
吉満 研吾

選定療養費について

他の保険医療機関からの紹介状をお持ちでない患者さんについては、初・再診料とは別に選定療養費をお支払いいただきます。詳しくは病院ホームページをご確認ください。

緩和ケアについて

緩和ケアとは、生命を脅かす疾患を抱えた患者さんとご家族の苦痛を和らげ、生活の質を向上するための支援です。早期から開始することで、安心して治療に臨み、より豊かな時間を過ごすことができます。



症状緩和チームについて

当院では、麻酔科・腫瘍内科・循環器内科・精神科の医師、緩和ケア認定看護師、緩和薬物療法認定薬剤師、管理栄養士、公認心理士が一丸となり、専門的な緩和ケアを提供しています。主治医や各部署のスタッフ、地域の医療機関と連携し、皆様が感じている様々な「つらさ」を和らげるチームです。ご希望の過ごし方に合わせて、療養環境の調整も行います。ご相談は随時、受け付けております。お気軽にご連絡ください。

連絡先 | 092-801-1011 (内線2105)

がん相談支援センター

患者さんやご家族、地域の皆さまの「がん」に関する不安や疑問などにお応えするため、「がん相談支援センター」を開設し、以下のような活動をしています。

1 がん情報の提供

がん情報サロンの開設

がんの治療や療養に関する書籍を自由に閲覧できるようにしています。

がんセミナーの開催

患者さんやご家族や一般市民を対象に、福岡大学病院や近隣の公民館で年間10回程度講演会を開催しています。スケジュールは当院のホームページを参照ください。

2 がんに関する相談対応

国が指定した研修を修了した相談員が以下のような相談に応じています。

- 治療に関する情報
(各がんの標準治療、重粒子線治療や免疫療法など)
- 副作用の対処法(脱毛ケア等)
- セカンドオピニオンの仕組み、受診方法
- こころの悩み
(不安な気持ちや悩みを聞いてほしい)
- 社会保障制度について
(高額療養費制度、傷病手当、障害年金、介護保険の申請等)
- 治療と仕事の両立
(会社へ病気のことをどう伝えればいいのか分からない)
- AYA世代患者への支援
- がんゲノム医療について



がんゲノム医療についての
詳細はこちら

場所 | 本館1階 がん相談支援センター | 利用時間 | 月～金 8:40～16:40

料金 | 無料 | お問い合わせ | 092-801-1011(代)



福岡大学病院公式ホームページ
<https://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/>



公式Facebook



公式YouTube

